

恩方地区 青少対だより

青少年対策
恩方地区委員会
発行
令和4年3月10日

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、青少対の各種行事が中止を余儀なくされました。そんな中わずかですが、活動できた内容をご報告いたします。



グリーン活動 年3回

第1回

6月28日恩方中が部活単位で実施
7月11日青少対委員で実施。
恩方市民センターから二手に分かれ、
1時間ほど活動。(保護者・児童・地域の方へは各自での自宅周辺の清掃を促した)

第2回

11月17日恩方中が生徒会中心で実施
11月7日青少対委員で実施。
内容は第1回同様。

第3回

3月実施予定



夏休み

特別 パトロール

育成指導員が中心となって実施(八月六日、十八日、二十七日)(三十一日は雨天中止)
青少対委員、各校副校長先生、防犯、高尾警察、駐在さんなど、毎回二十名ほどが参加。
小田野中央公園やコンビニを周り、遊んでいる子供たちに声掛けを行いました。



中止行事

- 8月14日 あそびの広場
- 10月30日 子どもシティ
- 31日 恩方市民センターまつり
- 11月7日 青少年健全育成キャンペーン
- 12月5日 ふれあいスポーツ大会
- 2月6日 子育て講演会
- 12日 あそびの広場

編集 後記

今回の青少対だよりには、「コロナ禍の中での教育活動」について、4校の校長先生方に寄稿していただきました。どの学校も学びの歩みを止めないために、たくさんのご苦労や工夫があることを改めて知ることができました。未だ、トンネルの出口は見えない状況ですが、子供たちの成長のために、今、私たち大人ができることを考えながら活動を進めていきたいと考えています。 総務 k



令和3年度 恩方地区青少対健全育成標語

1人じゃない 家族友達 みんないる

八王子市青少対では、毎年地区ごとに健全育成標語「思いやりの心に対する標語」を、小中学校で募集しています。

恩方地区では8月中旬までに、全児童生徒(858名)から募集を行い、優秀作品(21点)を選出しました。優秀作品を市の健全育成標語へ応募すると共に、最優秀作品(1点)を選定し、今年度の活動のテーマとして、活用しています。

また、今年度は市の健全育成標語に恩方第一小学校から2名が入賞しました。

『1人じゃない 家族友達 みんないる』 4年生

『つらくても 君の笑顔が 救いの手』 5年生

入賞作品は、全市の中から6作品が選ばれます。恩方から2名の入賞は初めてです(^^)。

子どもたちから 寄せられた 健全育成標語

各校代表作品

◆ 恩方第一小学校

いつも だいじにしてくれて

ありがとう (二年)

かぞくはね とてもたいせつ

ほんとうに (二年)

つらくても きみのえがおで

ゆう気出る (三年)

一人じゃない 家族友達

みんないる (四年)

つらくても 君の笑顔が

救いの手 (五年)

どうしたの ためこまないで

話してね (六年)

◆ 恩方第二小学校

まま いつも おいしいごはん

ありがとう (二年)

なやんでる とものこえかけ

うれしいな (二年)

きつとかなう みらいをゆめみて

ちようせんだ (三年)

ありがとう いっしょにいると

温かい (四年)

きづいてないだけでも きずついているかも

きをつけよう (五年)

だいじようぶ あなたの心

知りたいよ (六年)

♥ 元木小学校

おはようと おおきなこえで

はつきりと (二年)

ともだちは とてもたいせつ

たからもの (二年)

ふしぎとね えがおにひとが

よつてくる (三年)

かぞくから おうえんされると

うれしいな (四年)

落ち込むな 前を向けば

ゆめがある (五年)

天気がね いくら雨でも

笑顔晴れ (六年)

◆ 恩方中学校

こんなにも 愛してくれる

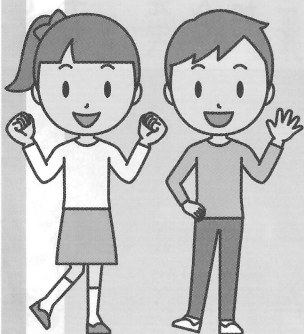
人がいる (二年)

しあわせは さがさなくても

すぐそこに (二年)

顔上げて 必ず周りに

友がいる (三年)



「コロナ禍」の中での教育活動

四校の校長にお聞きしました



恩方中学校
校長 植田 恭正

いつも大変お世話になっております。

本校への御理解と御協力を頂きましてありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、恩方中学校は「学びを止めない」をスローガンに、工夫をしながら教育活動が続けております。

恩方中学校では全学級でオンライン配信を実施しています。コロナ禍においても登校が心配な生徒が自宅でも授業を受けることができるようになりました。

我々教員は、オンライン配信の授業は未知の世界であり、全てが手探りからのスタートでした。オンライン配信の準備段階として、カメラをどこに設置したほうが良いのか・声の大きさはどうか・黒板の見やすさ・授業で使う配布プリントはどうするか・質問はどのように受けるかなど細部にわたって検証を重ねてきました。時には、回線が繋がらないなどのトラブルもあります。生徒も積極的に参加をしてくれるようになりました。使い始めますと、生徒は吸収力が高く、先生に操作を教えてくれる場面もあります。ICT機器に長けている生徒が活躍する場面もあります。画面を通してではあります。生徒と教員の微笑ましい姿を見ることができました。今後も、不測の事態に備え「学びを止めない」教育を推進していきます。



恩方第一小学校
校長 池田 貴博

新型コロナウイルスによる学校生活への影響が始まってからおおよそ2年が経ちました。現在の小学校1年生、2年生は今までの学校生活は知らず、ウィズコロナの学校生活が「普通の学校生活」になっています。

コロナ禍の中、どうしても今までと同じようにいかないことも多くあります。しかし、できないからどうしよう、と考え、何とかして工夫をするという視点は、これまでの学校ではあまり見られなかったことではないでしょうか。

「これまで通り」「去年と同様に」が通用しなくなり、職員で何とかアイデアを出し合い、新しい形に挑戦することによって、学校に新しい風が入るチャンスと前向きにとらえ、日々の学校生活を作り出しています。

休み時間に、走り回って遊んでいる児童の姿を見ていると、確かにマスクはしていますが、本質的にはコロナ前と変わらない児童が目の前にいます。この子たちに、今の環境の中でできる精一杯のことをしていくことが、学校に課せられた使命だと思います。コロナ禍がいつまで続くのか誰にもわかりませんが、マスクのいらぬ世界に戻ったときに対応できるよう、環境に合わせる順応性をしっかり準備していきます。



恩方第二小学校
校長 中込 順子

二年前の二月、コロナとの戦い・共存(?)が始まりました。あつという間に社会が変わり子どもたちの生活も激変しました。皆様もご存じの通り、全国の学校が休校になりました。恩方第二小学校に赴任が決まったのは休校になっていた真つ最中の時期でした。

始業式や入学式は行われたもののしばらく子どもたちには会えません。その間、地域でお会いする方々からは、温かい言葉をいただき元気が出ました。その体験から子どもたちには、挨拶のもつ素晴らしい力を伝えました。

学校再開時には、ソーシャルディスタンス等取り入れた新しい学校様式のもとで教育活動が始まりました。その中で恩方小学校に脈々と受け継がれてきた恩方の宝である「不易」を感じさせられることになりました。

Withコロナという言葉が出てきたときは、With everyone(みんな)、そして、GO TO Learnという気持ちで子どもたちとがんばりました。

幸いなことに小規模校の恩方第二小学校の子どもたちは、「我ら恩方探検隊」となり、ヤマメを増やす活動をはじめ、地域を活かした教育活動をほぼそのまま行うことが可能でした。まだ、できていない活動を今後、工夫しながら行っていくことを目指しています。



元木小学校
校長 刀瀬 俊明

元木小では「まてみけ」(マスク、手洗い、密を避ける、検温)を合言葉に、感染症対策に取り組んでいます。このような対策を取りつつ、なるべく教育活動を止めないようにしています。

やるかやらないかではなく、どうやればできるか、もし完全にはできない時は、そのできなかった分をどうやって補うような教育活動をするかを考えながら、進めています。日頃の授業では、感染症対策に気を付けながら、タブレット端末も活用し、少しずつ力をつけています。さらに、六月に5年生の姫木平移動教室、七月に6年生の日光林間学校、十月に運動会、十一月に学芸発表会を様々な工夫をしながら実施することができました。このような大きな行事は、子どもたちにとって、その学年の物は、その1回しかない貴重な体験であり、行事に向けての準備・本番・振り返りを通して、大きな成長が見られる子どももいます。地域・保護者に皆様のお力と御理解を支えに、この1年もコロナ禍で様々な制約がありましたが、子どもたちは確実に成長を進めてきました。感謝の気持ちとともに、来年度もよろしく願っています。

子供の成長を感じたとき



恩方中学校
PTA会長
橋本 学



恩方第一小学校
PTA会長
白井 慎太郎



恩方第二小学校
PTA会長
市川 早苗



元木小学校
PTA会長
長谷川 史郎

四校のPTA会長にお聞きしました

私には4月から専門学校に進学する長男と、4月から高校に進学する長女がいます。小さな頃は早く大きくなってほしいと思っていたが、子育てがあつたという間に終わったなあといい、いつの間にか大きくなったなあといい出に浸りました。私の教育は、子供に対して、ああしろ、こうしろとはあまり言わないようにし、自分で考え自分で行動するようにという教育方針で助言はしますが、そんな育て方をしました。二人は幼い時からヒップホップダンスを習っており、ダンスのおかげで将来の目標を立て、二人とも将来の目標を踏まえ、たうで高校を選びました。長男は将来の目標に向けてダンスや舞台演劇などのコースがある高校を3年間一生懸命張り4月からは音響の専門に通います。長女もダンスのコースがある高校に進学することが決まりました。二人とも自分の目標や夢を考え、自分で行きたい高校を探し目標があるからここに通いたいとお願いされた時に、当然反対せず、できずる限り応援してやっています。目標を立てて行動する二人に本当に成長したなあと今は感じています。将来どのような大人になるかこれから楽しみで、これからますますと応援していこうと思います。

私には大学一年の娘と小4の息子がいます。年が離れているおかげで女の子と男の子の子育てを楽しんでおります。長女の時妻が、長男の時は私がPTAに関わっております。

長女は中学生の頃には反抗期になり韓流アイドルを好きになると同時にパパには寄り付かなくなりました。ですが遅刻しそうな時には私に頼ってきて「パパ送って」と言ってきました。高校卒業するころには共通の趣味の話をするようになり女の子の子によくある嫌いな時期を楽しみました。

一方、長男は1年生からサッカーを始めサッカー経験のない私も一緒になつてサッカーにのめりこんでいるところだ。将来はプロサッカー選手になりたいと話しているので二人で夢を追いかけていこうと決めています。

子供の成長を様々なシーンで感じ、自分の幼少期と重ねたりしながら、これから子供たちが大人になっていく姿を想像して、これからの子供の成長を感じていくのかなと楽しみに感じているところだ。

こどもはいつまでたつてもこどもなんだから心配ぐらいさせろと言った母の言葉を思い出して「ほんまやな」と思う今日この頃です。

日頃は恩方第二小学校の子とも達が、地域でお世話になっております。ありがとうございます。

日々の中での子ども達の成長と云えばやはり、学校行事を通してではないでしょうか？運動会、学芸会、音楽会、また移動教室など学校は様々な成長のチャンスを用意して下さいます。

恩二小では、今年度の運動会で高学年が「かんがえりレー」という種目を行いました。児童が自分達で、各人の走る順番や距離を決め、作戦を練り赤組白組で競いました。お互いの得意や弱点をわかりあつていなければできない競技だと思ひます。恩二小は一年生からクラス替えがないため、子ども達は喜びを共有する時も多いでしょうが、毎日過ごす中で気持ちがいずれ違ふことだつてあるでしょう。そのような中で育ちながら、相手を受け入れている姿に子ども達も皆で成長していることを感じました。

学校行事で成長する理由として一つには、先生方が子ども達を信頼して見守り、自分達で考える時間を与えて下さるからではないかと思ひます。大人が指示を出すことを少し堪えらる、子どもは大きく成長するのかもしれない。

「このクイズやつてみて！」と話かけてきたのは、小5の我が娘。見てみると手にあるのはノートPC。昨年、学校から貸与された時は覚束ない手つきだったが、今や両手を駆使して使いこなす。作られたクイズはタブレット内でイラストや動画付きで展開。出題内容がゴミ問題・公園事業など私が日頃関わるテーマと同じなのは何故？（笑）と思ひつつも、改めて子ども達の吸収力の高さに驚き、また今後求められていくスキルについても考えさせられた。そんな令和の風を感じる一方で、昭和の匂いが残るもの。日頃、金魚のフンのように母に付き纏う娘は、いつの間にか、出来る家事も増え、また時には「自分が作つた」と自慢げに夕飯を出してくれるように。晩酌が止まらない父に水をそつと添えるのまでは似なくてもよいのだが。いつの時代も活字の他、実体験の中から得る学びが多くあるように思ふ。子ども達には、時代に即した学びに加え、様々な世代と交わる家族や地域から多くを学び、その両輪の学びを用い、逞しく生き抜いていつまでもいたい願う。それには「気づける力」「変えていける力」が必須。周囲を助け、周囲に助けられながら、私自身も子どもと共に成長していきたい。